



2026 年 10 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社 セイワホールディングス
代表者名 代表取締役社長 野見山 勇大
(コード番号：523A 東証グロース・名証ネクスト)

2027 年 5 月期第 1 四半期決算説明動画および決算説明書き起こしに関するお知らせ

当社は、2027 年 5 月期第 1 四半期決算に関してご説明するため、「決算説明動画」および「決算説明の書き起こし」を公開いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

なお、当社が自主的に公開するものであり、決算内容の詳細につきましては、2026 年 10 月 14 日に開示しております決算短信および決算説明資料をご覧ください。

記

1. 2027 年 5 月期第 1 四半期決算説明動画

<https://youtu.be/1xtrT0qgPhE>

2. 2027 年 5 月期第 1 四半期決算説明の書き起こし

2027 年 5 月期第 1 四半期決算説明の書き起こしにつきましては、次頁以降をご覧ください。

以上

本件に関するお問い合わせ先

IR サイト <https://seiwaholdings.co.jp/ir>

※IR サイトの「IR お問い合わせ」を開き、フォームよりお問い合わせください。

株式会社セイワホールディングス

2027年5月期 第1四半期決算説明資料

証券コード：523A（東証グロース市場・名証ネクスト市場）

野見山 勇大

株式会社セイワホールディングス、代表取締役の野見山勇大でございます。

平素より多大なるご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

早速ではございますが、2027年5月期第1四半期の決算説明に移らせていただきます。

2027年5月期 第1四半期 決算のポイント

1 業績

- 第1四半期は売上収益2,100百万円（前年同期比11.6%増）、調整後営業利益330百万円（同10.1%増）
- 既存事業はオーガニックでも増収増益となり、計画通りに進捗。新規M&Aの寄与は主に第2四半期から
- 通期業績予想を上方修正：売上収益11,000百万円（当初予想比12.2%増）、調整後営業利益2,000百万円（同11.1%増）
当初予想の公表後に実行した新規M&A3社（大栄パーカー、保安道路企画、栄進電機）の業績を反映（P8参照）

2 M&A

- 2027年5月期は既に**5件のM&A**を実行（第1四半期に4件、9月に1件）
特に、大栄パーカーのグループ入りにより、防衛関連という新たな領域に進出
- **5件すべてEV/EBITDA 5倍以内で取得**。投資規律の範囲内で実行

3 投資余力

- EV/EBITDA 5倍前後以内を基準とした投資規律
- Net Debt/EBITDA倍率で3-4倍をレバレッジの許容上限としており、2026年8月末の投資余力は3,765-6,115百万円

本日のポイントにつきまして、大きく3点お伝えいたします。

業績および上方修正について

第1四半期の売上収益は21億円（前年同期比11.6%増）、調整後営業利益は3.3億円（同10.1%増）となりました。

既存事業はオーガニックでも増収増益となっており、計画通りに進捗しております。

新規 M&A の寄与につきましては、主に第 2 四半期以降、数値としてしっかりと表れる見込みです。

また、本日、通期業績予想の上方修正を発表させていただきました。

修正後の通期予想は、売上収益 110 億円（当初予想比 12.2% 増）、調整後営業利益 20 億円（同 11.1% 増）となります。

こちらは、新規でグループ入りした大栄パーカー、保安道路企画、栄進電機の 3 社の業績を反映したものでございます。

M&A の進捗について

2027 年 5 月期におきましては、すでに 5 件の M&A を実行いたしました。

特に大栄パーカーがグループに加わったことで、防衛関連のエクスポージャーを新たに保持することができました。

こうした分野へも、今後継続的かつ積極的に進出していきたいと考えております。

なお、実行した 5 件の M&A はすべて、当社の投資規律である「EV/EBITDA 倍率 5 倍以内」で取得できております。

投資余力について

当社では、Net Debt/EBITDA 倍率 3~4 倍をレバレッジの許容上限として設定しております。

2026 年 8 月末時点での投資余力は 61.15 億円と、十分な余力を残しております。

足元でも大変旺盛な M&A の引き合いが継続しておりますので、これらの余剰資金をしっかりと活用して投資を行ってまいります。

目次

- 01. 当社について**
- 02. 2027年5月期 業績予想の修正**
- 03. 2027年5月期 第1四半期実績**
- 04. M&A戦略**
- 05. Appendix**

本日は、「当社について」「2027 年 5 月期 業績予想の修正」「2027 年 5 月期 第 1 四半期 実績」「M&A 戦略」「2027 年 5 月期 実施 M&A の振り返り」の 5 点に沿ってご説明いたします。

01. 当社について

Copyright © SEIWA HOLDINGS

5

初めてお聞きになる方もいらっしゃるかと思いますので、手短かに会社説明をさせていただきます。

セイワホールディングスの事業モデル

独自の仕組で製造業の後継者不在問題を解決する連続買収企業



Copyright © SEIWA HOLDINGS

6

当社が掲げる事業モデルは、独自の仕組みによって「製造業の後継者不在問題を解決する連続買収企業（ロールアップ）」でございます。

ステップ1として、後継者不在などの課題を抱える中小企業をM&Aにより承継します。

ステップ2で、当社の「セイワプラットフォーム」を活用し、対象企業を確実に成長させます。

そしてステップ3として、その支援によって得たキャッシュフローを事業投資および次のM&Aへ継続的に投資することで、連続的な成長を実現いたします。

非常に資金効率の高いビジネスモデルであると認識しております。

なぜこの事業を行うのか

父が経営する町工場にアルバイトで就労。モノづくりに向き合う「職人」と仕事をするなかで「彼らが日本を支えている」と感銘を受け入社を決意。

入社後、顧客は1社のみ、債務超過、過重労働と苦勞が多かった。

また社員は創業者である父だけを見ていて私は相手にされなかった。

がむしゃらに働き、少しずつ認めてもらっていった。

会社が軌道にのり、事業の成長・安定化を考える中で、「事業承継」が社会課題になっていることに気づき、自分の経験が活かせると直感した。

事業承継に取り組む中で、

「事業を閉じようと思っていたから従業員が家を買ったなどの話を聞くたびに

後ろめたい気持ちだったが、今は本当に心から喜べる」

「セイワグループに入っていなかったら、会社が厳しかったと思う」などの声を聞き、

オーナー様や社員の熱い想いを感じた。

こうした経験から、**想い**をつないで、「事業承継」に全力で取り組み、社会や取引先に貢献できる**中小企業のモノづくりのモデル**を実現することを決意した。

Copyright © SEIWA HOLDINGS



本事業を行うに至った経緯についてお話しいたします。

私自身、もともとは父が経営する町工場にアルバイトとして入社いたしました。

そこで働く職人の姿に「彼らこそが日本を支えている」と感銘を受け、入社を決意いたしました。

当時は顧客が1社のみ、債務超過、過重労働といった多くの苦勞があり、創業者である父や社員との関係性も含め、事業承継の難しさを身をもって体験いたしました。

その後、皆様のご支援もあり事業は成長を遂げました。

一方で、事業承継が深刻な社会問題となっていることを知り、自らの経験を活かさないかと考え本事業を開始いたしました。

オーナー社長様や社員の方々の情熱的な想いや優れた技術を次世代に残していく、そうした「新たなモノづくりモデル」を我々であれば構築できるという強い信念を持って取り組んでおります。

02. 2027年5月期 業績予想の修正

続きまして、2027 年 5 月期業績予想の修正についてご説明いたします。

2027年5月期 通期連結業績予想の修正

既存事業は計画通りに進捗。新規M&A3社（大栄パーカー、保安道路企画、栄進電機）を反映し、通期連結業績予想を上方修正

(単位：百万円)	前回予想(A) (2026年7月15日公表)	今回修正予想(B) (前期比)	増減額(B-A) (増減率)	(参考) 2026/5期 (実績)
売上収益	9,800	11,000 (前期比+37.3%)	+1,200 (+12.2%)	8,011
調整後営業利益 ⁽¹⁾	1,800	2,000 (前期比+39.8%)	+200 (+11.1%)	1,430
調整後EBITDA ⁽¹⁾	2,100	2,350 (前期比+34.7%)	+250 (+11.9%)	1,744
調整後当期利益 ⁽¹⁾	1,221	1,350 (前期比+27.5%)	+129 (+10.6%)	1,059 ⁽⁴⁾

(1)調整後指標は新たな調整基準に基づき算出しています。

調整後営業利益：営業利益に無形資産償却費、M&A取得関連費用及び一過性損益を加減算しています。調整後EBITDA：調整後営業利益に減価償却費を加算しています。

調整後当期利益：当期利益に無形資産償却費（税効果考慮後）、M&A取得関連費用及び一過性損益を加減算しています。

(2)前回予想には、公表時点で実行済みの三鷹金属工業のめっき事業の譲受及び大庭塗装工業所の2件を織り込んでいます。今回修正予想は、その後に行われた大栄パーカー、保安道路企画及び栄進電機の3社の業績を反映したものです。本資料公表日時点で未公表のM&Aによる影響は含んでいません。

(3)新規連結子会社の取得原価の配分（PPA）は完了しておらず、無形資産償却費は暫定的な金額に基づいています。

(4)前回開示の968百万円から訂正しています（事業譲受に伴う負ののれん発生益に係る税効果額91百万円を反映）。

Copyright © SEIWA HOLDINGS

9

既存事業につきましては計画通り堅調に進捗しておりますが、直近で実行いたしました新規 M&A 3 件（大栄パーカー、保安道路企画、栄進電機）の業績を反映し、通期業績予想を上方修正いたしました。

前期実績との比較では、売上収益・調整後営業利益ともに約 4 割増の水準となっております。

なお、今回の修正値には未公表の M&A は含まれておりませんので、今後新たな M&A が確定した場合には、さらに業績が上積みされることとなります。

03. 2027年5月期 第1四半期実績

第 1 四半期の実績をご報告いたします。

2027年5月期 第1四半期 連結決算ハイライト

調整後指標は前年同期比で堅調に推移。既存事業は計画通りに進捗

(単位: 百万円)	2026/5期 1Q (参考) (2)	2027/5期 1Q (実績)	増減額 (増減率)	通期予想 (当初) (進捗率) (3)	通期予想 (修正後)	増減要因 (前年同期比)
売上収益	1,881	2,100	+218 (+11.6%)	9,800 (21.4%)	11,000	既存グループ会社の伸長 (半導体関連需要等) 新規連結子会社の追加
調整後営業利益(1)	300	330	+30 (+10.1%)	1,800 (18.4%)	2,000	既存グループ会社の増収、原価低減活動の推進 新規連結子会社は第2四半期から寄与
調整後EBITDA(1)	377	411	+33 (+9.0%)	2,100 (19.6%)	2,350	調整後営業利益の増加による
調整後当期利益(1)	251	274	+23 (+9.3%)	1,221 (22.5%)	1,350	調整後営業利益の増加、支払利息の減少
会計上の数値 (IFRS)						
営業利益	409	151	▲257 (▲62.9%)	—	—	M&A取得関連費用の増加 (14→226) 負ののれん発生益の減少 (168→90)
四半期利益	279	106	▲173 (▲62.0%)	—	—	上記の営業利益の影響による

(1)調整後指標は新たな調整基準に基づき算出しています (定義はP8の注記をご参照ください)。第1四半期の調整後当期利益は、決算短信の「調整後四半期利益」に該当します。
(2)2026年5月期第1四半期は四半期決算を開示していないため、比較のための参考値として記載しています。監査法人のレビューを受けていない数値であり、調整後指標は新たな調整基準に基づき再計算しています。
(3)進捗率は2026年7月15日公表の当初予想に対する比率です。上方修正の対象となる新規連結子会社は連結開始直後のため、第1四半期実績への寄与は軽微です。
(4)新規連結子会社の取得原価の配分 (PPA) は完了しておらず、暫定的な会計処理に基づく数値です。

Copyright © SEIWA HOLDINGS

11

売上収益、調整後営業利益、調整後 EBITDA、調整後当期利益といった当社が重視する主要指標におきましては、前年同期比で約 10%の成長となり、既存事業は非常に堅調に推移しております。

一方で、IFRS (国際財務報告基準) に基づく会計上の損益計算書においては、営業利益および四半期利益が前年対比で減少しているように見受けられます。

この主な要因は 2 点です。

M&A 関連費用の増加

第 1 四半期における M&A 関連費用が、前年同期比で約 2.1 億円増加いたしました。

負ののれん発生益の減少

前年同期に計上されていた負ののれん発生益が、約 7,800 万円減少いたしました。

調整後指標の算定内訳 (第1四半期)

一過性要因等を除いた調整後営業利益は330百万円 (前年同期比+30百万円)

(単位: 百万円)	2026/5期 1Q参考 (2)	2027/5期 1Q実績	増減
営業利益	409	151	▲257
M&Aに伴う無形資産償却費	+29	+30	+0
M&A取得関連費用	+14	+226	+211
一過性要因 (負ののれん発生益、上場関連費用等) (1)	▲153	▲77	+75
調整後営業利益	300	330	+30
減価償却費	+77	+80	+3
調整後EBITDA	377	411	+33
四半期利益	279	106	▲173
M&Aに伴う無形資産償却費 (税効果考慮後)	+19	+19	+0
M&A取得関連費用	+14	+226	+211
一過性要因 (負ののれん発生益、上場関連費用等) (1)	▲153	▲77	+75
一過性要因に係る税効果(3)	+91	—	▲91
調整後四半期利益	251	274	+23

(1)一過性要因の内訳は、2026/5期1Qが負ののれん発生益▲168、上場関連費用+15、2027/5期1Qが負ののれん発生益▲90、事業譲受に伴う一時費用+12です。
(2)2026/5期1Qは四半期決算を開示していないため参考値です (監査法人のレビューを受けていません)。百万円未満を切り捨てているため、内訳の合計が一致しない場合があります。
(3)2026/5期1Qの事業譲受に伴う負ののれん発生益に係る税効果額です。

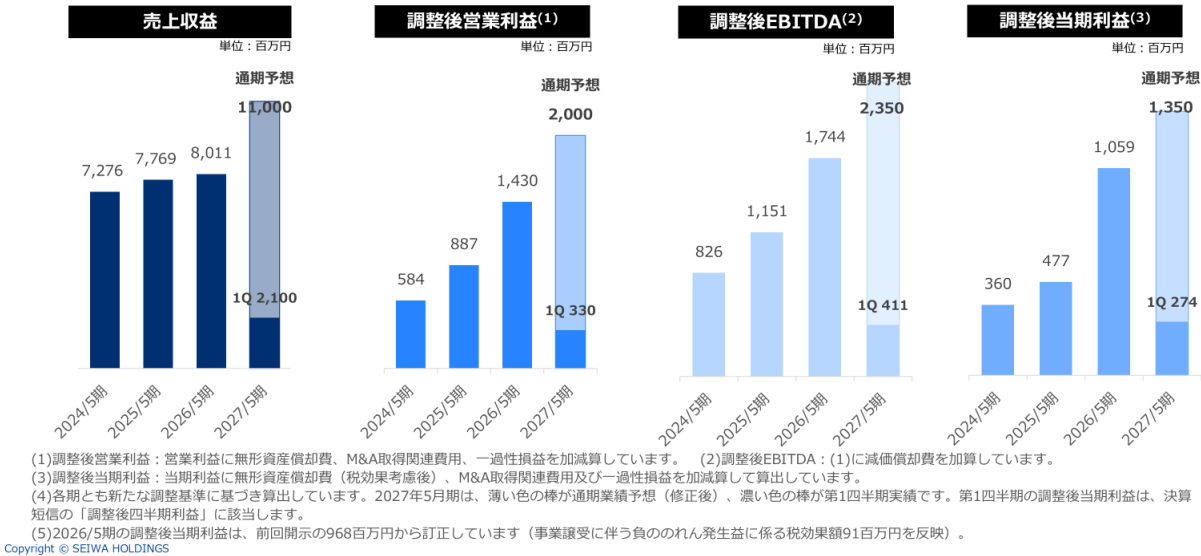
Copyright © SEIWA HOLDINGS

12

これらの決算要因・一時的費用を除外した実質的な業績としては、オーガニックでの成長をしっかりと達成できております。調整後指標の算出式につきましても資料に記載しておりますので、併せてご確認いただけますと幸いです。

連結業績推移

M&Aと既存事業の成長により増収増益を継続。2027年5月期も過去最高の更新を計画



連結業績の推移といたしましては、M&Aと既存事業の成長により、継続的な増収増益を達成しております。

2027年5月期においても過去最大の投資を計画しております。

継続的なM&Aを支えるバランスシート

手元資金でM&Aを実行。Net Debt/EBITDAは1.4倍、最大6,115百万円の投資余力

(単位: 百万円)	2026/5期	2027/5期 1Q	差額	備考
流動資産	8,207	7,253	▲954	現預金の減少
現預金等 ⁽¹⁾	6,170	3,774	▲2,395	M&Aの取得対価の支払い
非流動資産	6,512	9,588	+3,075	M&Aに伴うのれん・無形資産等の増加
うち、のれん	1,464	2,778	+1,314	新規連結に伴う増加(暫定)
うち、無形資産	1,297	2,062	+764	顧客関連資産等の計上(暫定)
総資産	14,719	16,841	+2,121	上記による増加
流動負債	3,601	5,143	+1,542	短期借入金の増加
短期有利子負債 ⁽²⁾	2,014	3,249	+1,235	運転資金として1,300百万円を調達
非流動負債	4,852	5,325	+473	繰延税金負債等の増加
有利子負債 ⁽²⁾	3,936	3,809	▲127	長期借入金の約定返済
総負債	8,453	10,469	+2,016	短期借入金の増加
純資産	6,266	6,372	+105	四半期利益の計上
Net Debt	▲219	3,284	+3,503	現預金の減少と短期借入金の増加
調整後EBITDA	1,744	2,350	+605	1Qは通期業績予想(修正後)
Net Debt/EBITDA	▲0.1倍	1.4倍	-	上限の目安は3-4倍
M&A投資余力 ⁽⁵⁾	-	3,765-6,115	-	調整後EBITDA×3-4倍-Net Debt
自己資本比率 ⁽⁴⁾	42.6%	37.8%	▲4.7pt	総資産の増加により低下

(1) 現預金等 = 現金及び現金同等物 (2) 有利子負債 = 借入金 + リース債務 (3) 調整後EBITDA: 2026/5期は実績(新たな調整基準)、2027/5期1Q末は通期業績予想(修正後) (4) 自己資本比率 = 親会社所有権維持分比率 (5) M&A投資余力 = 調整後EBITDA×3~4倍 - Net Debt

また、継続的な M&A を推進する上でバランスシートを極めて重視しており、手元資金および適正な負債範囲内でしっかりと実行しております。

今期の Net Debt/EBITDA 倍率は 1.4 倍となっており、さらに 61.15 億円の投資余力を残しております。

非常に旺盛な M&A 需要に対しても、十分に対応可能な状態を維持しております。



04. M&A戦略

Copyright © SEIWA HOLDINGS

15

M&A 戦略の説明に移らせていただきます。

事業承継の沿革

製造業を中心に事業承継プラットフォームとして過去21件のM&Aを実施

1995年12月	○	有限会社セイワ工業（当社の前身）を設立	2022年2月	○	(株)カケンジェネックス
2019年6月	○	東栄コーティング(株)	2022年3月	○	(株)JOB
2019年10月	○	(株)カスカ	2022年4月	○	日本計器(株)
2020年7月	○	光誠産業(株)、(株)ブレンズ	2022年6月	○	(株)開伸、日本興業(株)
2020年10月	○	三陽電工(株)	2023年7月	○	(株)金谷塗装工業所
2021年1月	●	(株)セイワホールディングス設立	2024年11月	○	(株)富士鍍金工業所
2021年3月	○	三重工業(株)	2025年6月	○	(株)勝山塗装工業所のカチオン塗装事業
2021年6月	○	(株)平野製作所	2026年6月	○	三鷹金属工業(株)のめっき事業、(株)大庭塗装工業所
2021年9月	○	タマ化工(株)	2026年8月	○	大栄パーカー(株)、保安道路企画(株)
			2026年9月	○	(株)栄進電機

Copyright © SEIWA HOLDINGS

16

当社はこれまで、製造業を中心に累計 21 件の M&A を連続的に行ってまいりました。

2024 年および 2025 年は上場準備期間であったため年間 1 件ずつの進捗にとどまっておりましたが、2027 年 5 月期におきましては、すでに 5 件の M&A を実行しております。

M&A投資方針および対象企業の考え方

最大6,115百万円の投資余力があり、当面のM&Aは手元現金とDebtキャパシティで対応可能

基本的な投資方針

投資基準	- EV/EBITDA倍率を基準に評価し、原則5倍前後以内の企業を中心に検討 投資対象数が多い、100-300百万円のEBITDA企業が中心
投資対象	- ニッチ領域において競争優位性を有し、既存注力分野と親和性の高い製造業（最優先M&A先はここ） - 製造業特化型の人材派遣、システム、レンタル、取付工事機能等のモノづくり補完機能を有する企業 - バリュエーションが正当化されるファンド案件も対象（後継者不在→ファンド→当社）
投資状況	2024年11月に投資した富士鍍金工業所は、堅調に営業利益改善 2027年5月期は5件のM&Aを実行。すべてEV/EBITDA 5倍以内で取得
投資規律	- Net Debt/EBITDA倍率3-4倍を上限とした財務規律を維持。 - 現状の投資可能余力は3,765-6,115百万円（2026年8月末時点）

投資方針および基準に関する考え方は従来と変わりございません。

原則として「EV/EBITDA 倍率 5 倍以内」の企業を中心に検討しております。

対象としては、ニッチ分野で高い競争力を持ち、投資対象数が豊富な EBITDA 1 億～3 億円規模の企業を主軸としておりますが、バリュエーションが適正化されれば、それ以上の規模の案件にも積極的に取り組んでまいります。

最大 61.15 億円の投資余力がございますので、当面の M&A におきましては手元現金および Debt キャパシティで十分に対応可能です。

投資対象領域としては、引き続きニッチ分野で強みを持ち、既存の注力分野と親和性の高い企業を最優先としてまいります。

M&Aにおける当社のポジショニング

売却を前提としない株式保有による、独自のポジショニング

	投資対象企業数	中長期の取り組み	相乗効果による成長	事業承継ノウハウ
当社	○ 高収益を目指す ニッチ中小企業が多数存在	○ 中長期を見据えた 投資が可能	○ 独自のプラットフォーム グループシナジーの追求	○ 中小製造業における 豊富な実績
大手 製造業	△ 一定以上の売上・利益規模が 必要で、親会社と 関連する事業が対象	△ 業績悪化、事業戦略の 変更により、投資企業の 優先順位が大きく変動	△ 親会社と同一の事業であれば シナジー効果あり	△ 多くのM&A実績を持つ 企業は稀
投資 ファンド	× 一定以上の売上・利益規模が 必要。ニッチ領域は難易度が 高く対象になりにくい	△ 売却やIPO前提のため 中長期を見据えた支援が行いづ らいが経営ノウハウはある	× 単独で成長	○ 多くのM&A実績 目利き力・M&A実行力

当社の最大の強みは、「売却を前提としない永続的な株式保有」を行う点にあり、売り手企業のオーナー様から非常に高く評価されております。

大手製造業が買収の競合となる場合、画一的な管理手法への懸念や「企業の良さが失われるのではないか」という不安を抱かれるオーナー様が少なくありません。

また、投資ファンドの場合は将来的な再売却が前提となります。

これに対し、長期的視点での投資と競争優位性の維持が求められる製造業においては、当社の「永続保有」かつ「中小企業の実情を熟知した体制」が選ばれる要因となっております。

M&Aにおける当社の強み

製造業の中でも、特定領域に特化したシナジー重視のM&Aを連続的に実行する戦略により、ソーシング及びPMIの観点で明確な強みを発揮することが可能

ソーシングで選ばれる理由



代表の野見山自身が2代目として事業の再生・成長を実現した経験を有しており、現場目線でオーナーとの信頼関係を構築しやすい



永続保有を前提としているため、売手オーナーから納得感・安心感を得られやすい



当社は類似企業のM&A実績が多いため、売手オーナーがM&A後のシナジーをイメージしやすい

PMIの成功確度が高い理由



現場を深く理解したメンバーがPMIを推進しており、高い成長のトラックレコードを有する



類似企業のM&Aを通じてノウハウが蓄積されており、集約・統合効果を発揮しやすい



セイワプラットフォームの活用により、買収後の立ち上げと改善を迅速に進められる

また、連続 M&A における当社の強みは次の 2 点です。

ソーシング

代表自身が事業承継および現場の再生を経験しているため、オーナー社長様と現場目線での深い対話が可能です。

さらに、類似企業での豊富な M&A 実績があるため、グループ入り後の成長イメージを明確にお持ちいただけます。

PMI 推進

現場を熟知したメンバーが PMI（買収後の統合プロセス）を推進します。ノウハウや人材の共有が容易であり、迅速な収益改善とシナジー創出が可能です。

独自プラットフォームの活用により、買収後の立ち上げおよび改善をスピーディーに推進する仕組みが確立されています。

2027年5月期のM&A実績

5件のM&Aを実行。防衛、半導体、防災・安全など成長分野のニッチ企業を取得
5件すべてEV/EBITDA 5倍以内で取得。投資規律の範囲内で実行

対象	手法	実行日	事業内容	主な狙い
① 三鷹金属工業 (めっき事業)	事業譲受 (富士鍍金工業所)	2026年6月19日	金属表面処理 (めっき)	製造キャパシティの拡大 半導体関連需要への対応
② 大庭塗装工業所	株式譲受 (100%)	2026年6月30日	金属製品塗装・組付 (カチオン電着塗装等)	関東・中部をまたぐ対応 営業エリアの拡大
③ 大栄バーカー	株式譲受 (100%)	2026年8月5日	アルミ合金製品への化成皮膜処理 (防衛関連用途)	表面処理技術の相互補完 共同購買・共同配送
④ 保安道路企画	株式譲受 (100%)	2026年8月31日	視線誘導標「ポストフレックス」等の道 路保安用品	セイワ工業の道路関連資材との親和性 交通安全領域の拡充
⑤ 栄進電機	株式譲受 (100%)	2026年9月1日	特殊ワイヤーハーネス加工	三陽電工の電線製造との一貫対応 関東エリアの営業基盤拡大

(1)各案件の詳細は次ページ以降及び適時開示をご参照ください。

(2)④保安道路企画は2026年8月31日、⑤栄進電機は2026年9月1日の実行であり、第1四半期の損益への寄与は限定的です。

Copyright © SEIWA HOLDINGS

20

今期実施いたしました5件のM&Aについてご説明いたします。

半導体、防衛、防災・安全といった成長分野の優良企業を取得できており、いずれも当社の投資規律に基づいた適正な規律のもとで実行されております。

2027年5月期のM&A事例①：三鷹金属工業（事業譲受）

連結子会社の富士鍍金工業所が、三鷹金属工業の金属表面処理（めっき）事業を譲受
製造キャパシティの拡大により、半導体関連需要に対応できる生産体制を強化

譲受主体（富士鍍金工業所）の概要

会社名	株式会社富士鍍金工業所
創業	1955年1月
資本金	1,000万円
国内工場	本社工場(犬山市) / 各務原工場
従業員数	61名 (2025年5月末現在)
事業内容	金属表面処理 (めっき) 事業
主要取引先	村田機械(株) / CKD(株) / (株)アスカ / 鍋屋バイテック会社
許認可	毒物劇物取扱責任者 水質関係第二種公害防止管理者

譲受の狙い：製造キャパシティの拡大



製造キャパシティを
約35%増加できる見込み



三鷹金属工業は、富士鍍金工業所と
同規模の製造キャパシティを保有

Copyright © SEIWA HOLDINGS

詳細：2026年6月3日付 適時開示 <https://ssl4.eir-parts.net/doc/523A/tdnet/2830393/00.pdf>

21

当社の株主・中核企業である富士鍍金工業所が主体となり、三鷹金属工業の金属表面処理事業を譲受いたしました。

半導体分野の旺盛な需要に対し、富士鍍金単体では設備キャパシティの拡張が課題となっておりました。

近隣エリアで大型めっき設備を保有する三鷹金属工業の事業を譲受することで、生産キャパシティを大幅に拡大いたしました。

進行期においても半導体部品向けは非常に好調であり、この設備を活用してさらなる成長を目指します。

2027年5月期のM&A事例②：大庭塗装工業所

カチオン電着塗装等の多様な塗装技術を自社内で一貫して手掛ける
金属製品塗装・組付の専門メーカーである大庭塗装工業所の株式譲受を実行

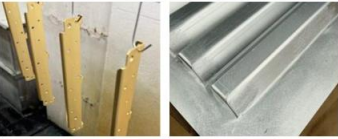
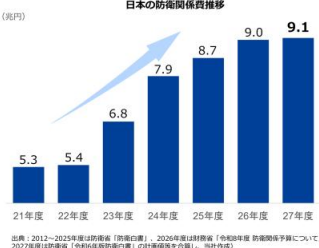
会社概要	事業の特徴・市場環境	グループとのシナジー
エアコン等の家電部品や四輪・二輪の部品等の塗装・組付事業を展開する大庭塗装工業所を子会社化		大庭塗装工業所は関東と中部の中間地点に位置し、グループに加わることで、 関東と中部をまたいだ対応 が行いやすくなり、 営業エリアの拡大 が期待される
会社名 株式会社大庭塗装工業所		
創業 1958年8月		
資本金 1,200万円		
工場 静岡県袋井市上山梨173-1		
従業員数 64名（2025年7月末現在）		
事業内容 金属製品塗装・組付（カチオン電着塗装、静電塗装、粉体塗装、耐熱塗装等）		
製造対象製品 エアコン等の家電部品や、二輪・四輪自動車の部品		

Copyright © SEIWA HOLDINGS 詳細：2026年6月24日付 適時開示 <https://ssl4.eir-parts.net/doc/523A/tdnet/2839962/00.pdf> 22

カチオン電着塗装を主力事業とする企業です。これまで当社のカチオン塗装拠点群は関東エリアに集中しておりましたが、今回の買収により初めて静岡へ進出いたしました。
東海エリアの案件相互融通に加え、後述の大栄パーカーとの事業連携を進めております。

2027年5月期のM&A事例③：大栄パーカー

経済安保上も重要な防衛関連用途を中心に、
アルミ合金製品への化成皮膜処理を専門とする大栄パーカーの株式譲受を実行

会社概要	事業の特徴・市場環境	グループとのシナジー
防衛関連用途のアルミ合金製品への化成皮膜処理を専門とする大栄パーカーを子会社化		生産ノウハウの共有、共同購入による材料費の削減、共同配送による物流コストの低減が見込まれる
会社名 大栄パーカー株式会社		
創業 1981年4月		
資本金 2,000万円		
所在地 神奈川県川崎市高津区北見方三丁目8番8号		
事業内容 表面処理・表面加工業（アルミ合金製品への化成皮膜処理）		
製造対象製品 防衛関連製品等		

Copyright © SEIWA HOLDINGS 詳細：2026年8月5日付 適時開示 <https://ssl4.eir-parts.net/doc/523A/tdnet/2863436/00.pdf> 23

経済安全保障上、極めて重要な防衛関連を中心に、アルミニウム製品への表面処理加工を行っている企業です。
現在も非常に旺盛な受注をいただいております、進行期も堅調な成長を見込んでおります。

2027年5月期のM&A事例④：保安道路企画

視線誘導標「ポストフレックス」の国内独占販売権を有し、
交通安全領域を幅広くカバーする保安道路企画の株式譲受を実行

会社概要

事業の特徴・市場環境

グループとのシナジー

視線誘導標「ポストフレックス」を主力製品とする
道路保安用品メーカー

会社名 保安道路企画株式会社

創業 1974年9月（設立：2020年3月）

資本金 2,000万円

所在地 神奈川県横浜市旭区
鶴ヶ峰本町1-12-10

従業員数 35名（2025年7月末現在）

事業内容 ポストフレックスの製造・販売、道路保安
用品の販売・リース、交通安全施設工事

販売網 全国1,200社以上。国土交通省・地方公共
団体・工事会社等に製品を供給

主力製品：視線誘導標「ポストフレックス」

国土強靱化関連の事業規模推移

年次	事業規模（兆円）	政策支援は次の5年間で継続拡大
2018	約7兆円	3力年緊急対策 2018-2020年度
2021	約15兆円	5力年加速化対策 2021-2025年度
2026	20兆円強	第1次国土強靱化実施中期計画 2026-2030年度

出所：内閣官房「第1次国土強靱化実施中期計画」を基に当社作成
（各計画期間の事業規模）

祖業の株式会社セイワ工業は大型道路案内標識柱等の道路関連
資材を製造しており、保安道路企画の製品との親和性が高い

セイワ工業

大型道路案内標識柱

大型構造物の製造力・品質管理

保安道路企画

ポストフレックス等

高い商品力・豊富な施工実績

Copyright © SEIWA HOLDINGS

詳細：2026年7月31日付 適時開示 <https://ssl4.eir-parts.net/doc/523A/tdnet/2859935/00.pdf>

24

視線誘導標、「ポストフレックス」等の道路保安用品の製造・販売を手掛ける企業です。

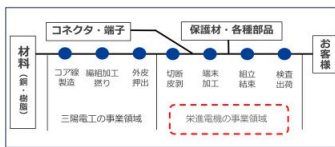
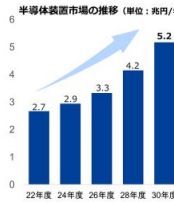
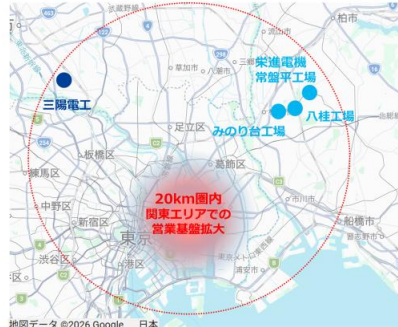
国土強靱化推進の中で、防災・安全関連領域は堅調に拡大しております。

同社商品は国土交通省のスペックにも採用されております。

当社の創業母体であるセイワ工業も大型道路案内標識柱などの道路資材を製造しているため、当社にとっても非常に理解の深い分野であり、クロスセルや顧客開拓などのシナジーを創出してまいります。

2027年5月期のM&A事例⑤：栄進電機

半導体製造装置をはじめとする各種設備・計測器向けの
特殊ワイヤーハーネス加工を手掛ける栄進電機の株式譲受を実行

会社概要	事業の特徴・市場環境	グループとのシナジー																
半導体計測器向けの特殊ワイヤーハーネス加工を行う栄進電機を子会社化 <table><tr><td>会社名</td><td>株式会社栄進電機</td></tr><tr><td>創業</td><td>1988年4月</td></tr><tr><td>資本金</td><td>1,200万円</td></tr><tr><td>本社</td><td>千葉県松戸市稲台七丁目13番地1</td></tr><tr><td>工場</td><td>みのり台工場・八柱工場・常盤平工場</td></tr><tr><td>従業員数</td><td>95名</td></tr><tr><td>事業内容</td><td>電線・ケーブル加工販売、電子部品卸</td></tr><tr><td>製造対象製品</td><td>ワイヤーハーネス・各種電子機器等</td></tr></table>	会社名	株式会社栄進電機	創業	1988年4月	資本金	1,200万円	本社	千葉県松戸市稲台七丁目13番地1	工場	みのり台工場・八柱工場・常盤平工場	従業員数	95名	事業内容	電線・ケーブル加工販売、電子部品卸	製造対象製品	ワイヤーハーネス・各種電子機器等	電線製造～ハーネス加工までの工程イメージ  取引先数 年間200社以上 創業から38年以上かけて培ってきた強固な顧客基盤が存在 主要顧客メーカーの集積 半導体製造装置 半導体需要の高まりを受け 電線加工需要は上昇トレンド 半導体装置市場の推移（単位：兆円/年）  出所：22年・24年は経済産業省「生産動向統計」を基に当社作成。 26年以降は、政府が掲げる30年の国内半導体関連売上高15兆円目標の目標等を参考に当社試算 三陽電工で製造した電線を栄進電機で加工することで、仕様・納期の両面でより柔軟な対応が可能となる  地図データ ©2026 Google 日本 三陽電工と栄進電機3工場は20km圏内	
会社名	株式会社栄進電機																	
創業	1988年4月																	
資本金	1,200万円																	
本社	千葉県松戸市稲台七丁目13番地1																	
工場	みのり台工場・八柱工場・常盤平工場																	
従業員数	95名																	
事業内容	電線・ケーブル加工販売、電子部品卸																	
製造対象製品	ワイヤーハーネス・各種電子機器等																	

copyright © SEIWA HOLDINGS

詳細：2026年8月27日付 適時開示 <https://ssl4.eir-parts.net/doc/5234/tदनत/2878504/00.pdf>

特殊なワイヤーハーネス加工技術を持つ企業です。

当社グループには電線製造やコネクタ加工を行う三陽電工がございますが、後工程を担う栄進電機が加わったことで、一貫生産体制が確立いたしました。

同社の主要顧客には半導体関連企業が多く、足元でも非常に強固な需要がございます。

仕様の統一や納期短縮など、柔軟な対応力を発揮してまいります。

以上、今期実行したすべての M&A は当社が熟知する領域であり、今後の成長が見込める市場でございます。

第 1 四半期以降も各社の成長をしっかりと支援してまいります。ご清聴ありがとうございました。